MAK-564　BRK3　2005年3月1日発行

TOSTEM トステム株式会社

リビング建材 ファミリーライン モダン/クラシック クローゼット折れ戸フリータイプ　取付け説明書

■施工される方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

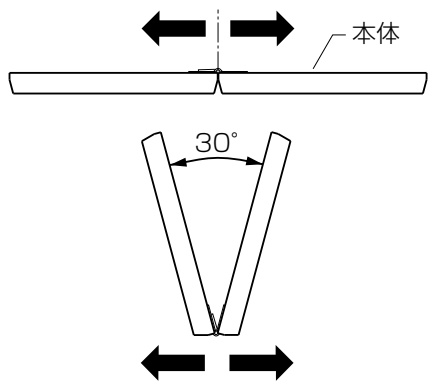
⚠注 意…取付けを誤った場合に、使用者が中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

⚠ 注　意

●上レールは仮固定ですので、必ず指定のねじで躯体へ固定してください。本体が脱落するおそれがあります。
●吊車は本体にねじ止めし、ガタツキがないように固定してください。本体が脱落するおそれがあります。
●本体へはもたれ掛からないようにしてください。本体がはずれ、転倒しケガの原因となります。
●本体は把手をもって操作してください。本体と枠のすき間や、本体間のすき間で手や指をはさみケガをするおそれがあります。
●本体は把手にぶらさがったり、重量物をぶらさげないでください。把手が壊れ落下・転倒してケガをするおそれがあります。

■本体の開閉操作上のお願い

本体を開閉する際は、下記事項を守って操作してください。
●本体をフラットのまま移動させます。
●30°の角度で本体が一時固定するようになっていますので、この状態で移動させます。
※角度が30°未満の状態では移動させないでください。この場合、動きがギクシャクしたり、下部のローラーがレールから外れたりする場合があります。

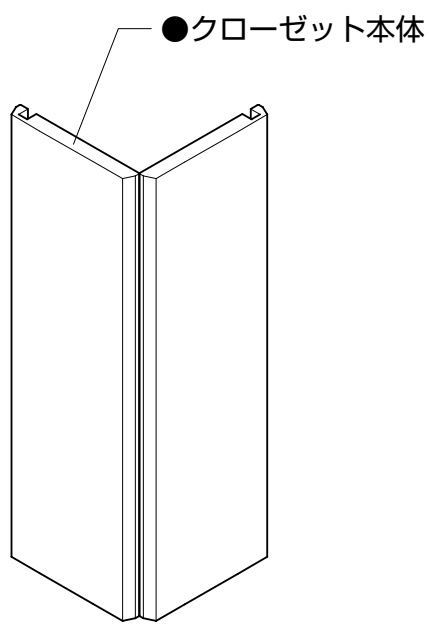
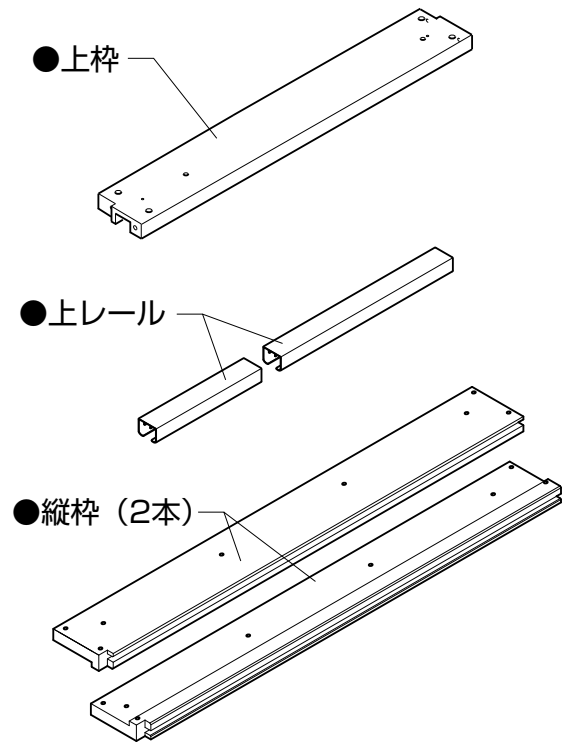
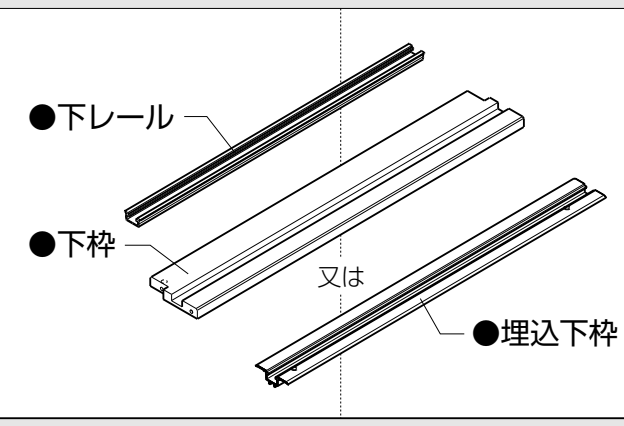
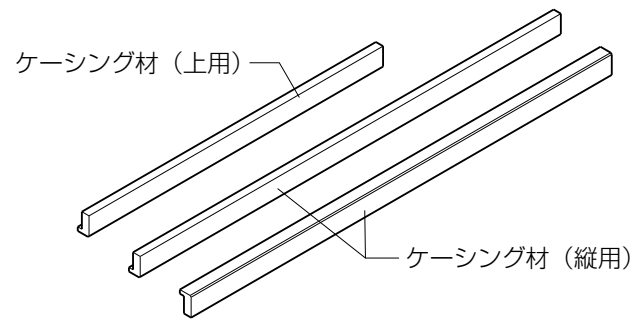


■施工上のお願い

●本製品は上吊り方式のため、はり又はまぐさで重量を受けますので、本体重量に耐える断面のはり又はまぐさをご使用ください。
●ミラータイプの本体は、1つの枠の中に1枚のみとしてください。
●枠を取付ける際、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
●造作材・建具枠を取付ける時には、必ず接着剤を併用してください。
●かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤を塗布してください。
●現場で使う接着剤は、「F★★★★」又はノンホルムタイプを使用してください。
●かい木には、合板などの乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
●本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きのドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれる場合があります。
●本製品の組立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や垂下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます)
●造作材・建具枠の下地材は、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用してください。湿潤材は使用しないでください。
●壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
●枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損するおそれがあります。
●造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさの間には、かい木を入れてください。
●建具枠をコンクリートやモルタル（床面）に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
●運搬・加工の際は、キズ付けないように取扱ってください。又、水・直射日光の当たる場所に、開梱状態で置かないでください。反り・ねじれの原因になります。
●納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず施工前にお買求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)

■部品・部材の明細

■部材の明細

折れ戸本体	折れ戸用枠	折れ戸用下枠
		
		ケーシングセット（ケーシングタイプのみ）
		

■本体用部品

	吊車	皿タッピンねじ φ3.5×20 (吊車取付け用)	ガイドローラー	把手セット（ねじ付）	調整スパナ	ガイドローラー固定金具
W07・08	2	8	2	1	1	1
W12・13・16・18	4	16	4	2	1	2
W24・26・27	6	24	6	3	1	3
W33・34・36	8	32	8	4	1	4

■枠用部品

	皿小ねじ M4×50 （上枠・縦枠組立て用）	トラスタッピンねじ φ4×60 （上枠躯体取付け用）	皿タッピンねじ φ4×50 頭部シート色塗装 (縦枠躯体取付け用)	穴埋めシールシート
W07・08	4	4	※12	1
W12・13	4	5	※12	1
W16・18	4	6	※12	1
W24	4	8	※12	1
W26・27	4	9	※12	1
W33	4	10	※12	1
W34・36	4	11	※12	1

※予備用4本含む

■下枠用部品

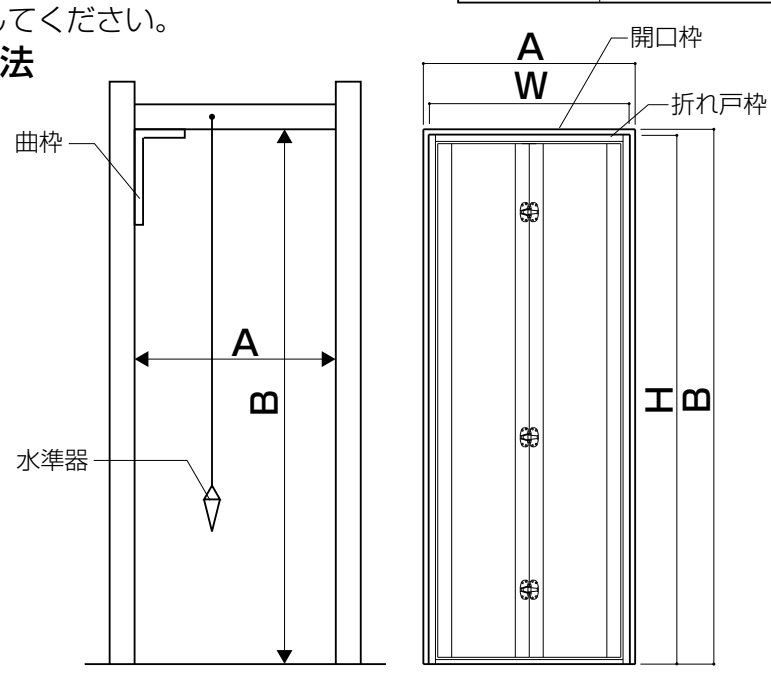
	皿小ねじ M4×50 （下枠組立て用）	皿タッピンねじ φ3.5×20 （枠取付け用）	下枠ピース
薄下枠W07～W08	4	2	–
薄下枠W12～W18	4	3	–
薄下枠W24～W36	4	5	–
埋込下枠W07～W18	–	3	2
埋込下枠W24～W36	–	5	2

■開口部の確認

※開口部の水平・垂直を確認してください。
※開口部寸法が右記寸法になっていることを確認してください。

開口寸法A	製品寸法W+10mm
開口寸法B	製品寸法H+5mm

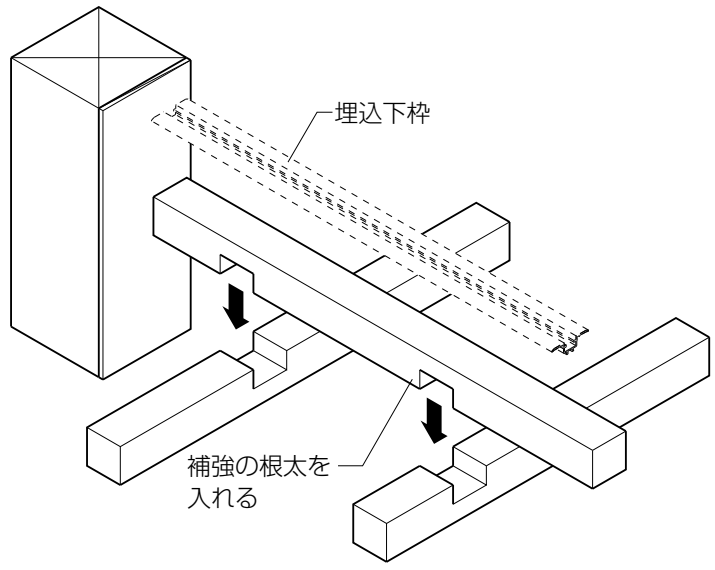
●開口寸法



■床の張り方

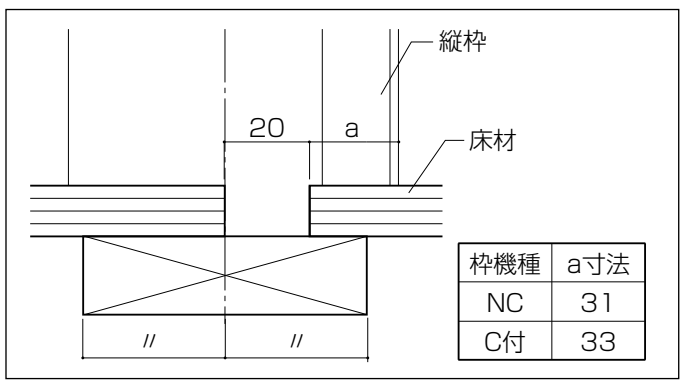
■下枠下地の確認

●枠材は捨て張り合板の上に施工するか、根太張り工法の場合は下図のように根太を入れて補強してから施工してください。下枠の破損や本体開閉不具合の原因となります。



■床張り位置【埋込下枠を使用する場合】

※床材は、柱芯（建具芯）より引込み側に20mmあけて張ってください。柱芯と建具芯が合っていない場合は、縦枠端部よりの寸法内側に入った所に20mmあけて張ってください。

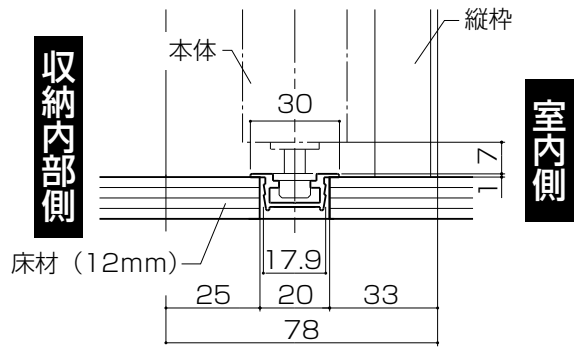


枠機種	a寸法
NC	31
C付	33

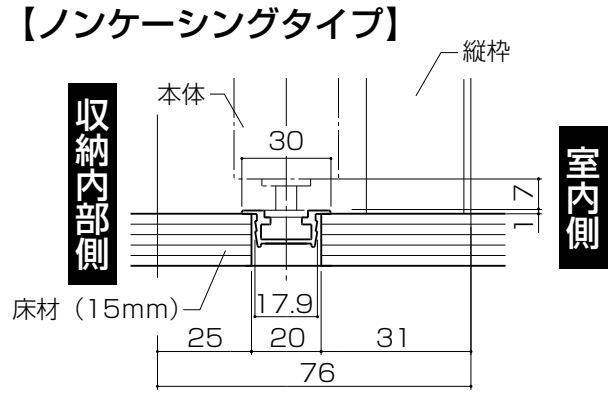
お願い

※床材は必ず上図の位置に張込んでください。
床材の開口寸法が大きすぎたり狭すぎると、床のすき間が見えたり埋込下枠が入りにくい原因となります。

【ケーシング付きタイプ】

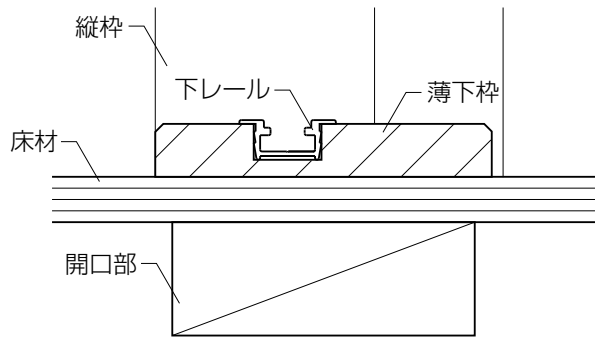


【ノンケーシングタイプ】



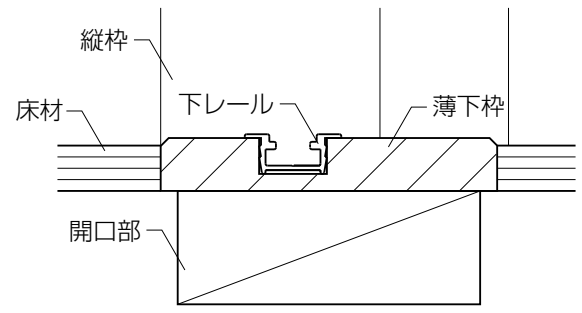
【薄下枠を使用する場合(床載せ納まり)】

●床材を張ってから枠を取付けてください。



【床後張り(枠先付け)の場合】

●枠取付け後、縦枠・薄下枠にそって床材を張ってください。

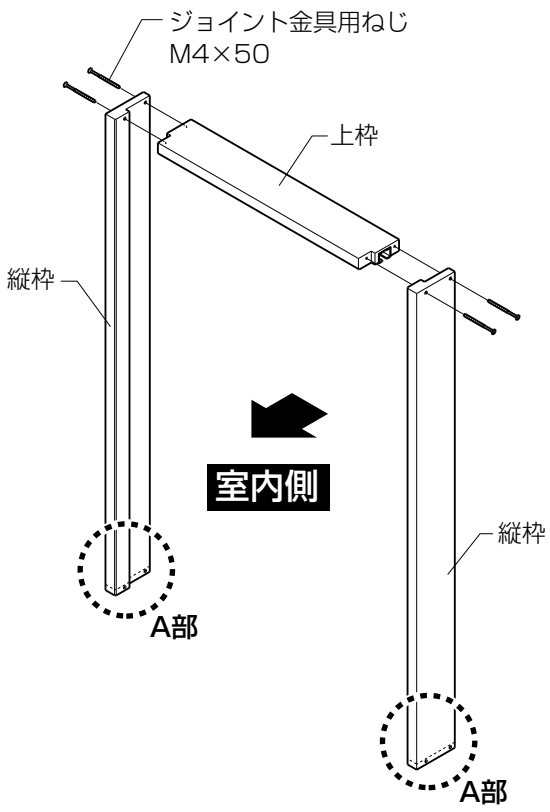


■取付け詳細

1 枠の組立て

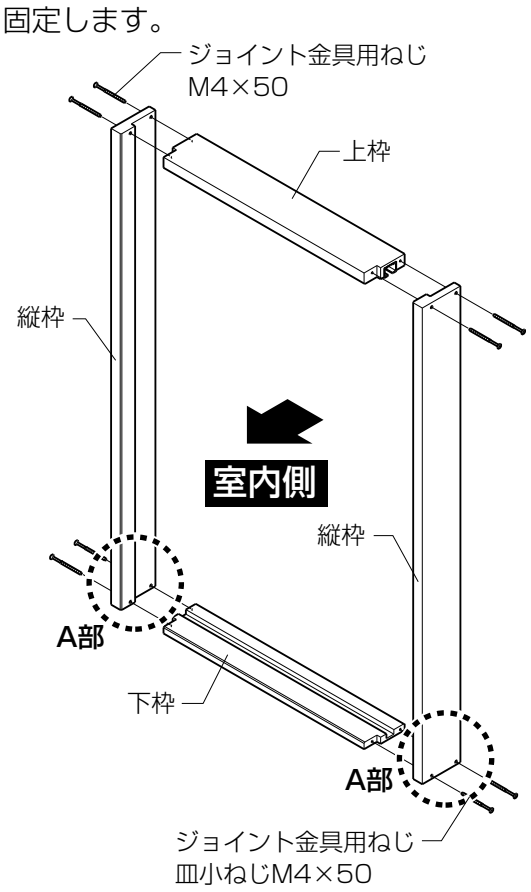
【埋込下枠を使用する場合】

●縦枠下部(A部詳細図中斜線部)を切断してください。
●下図のように各部材を組合わせ、同梱のねじで固定します。



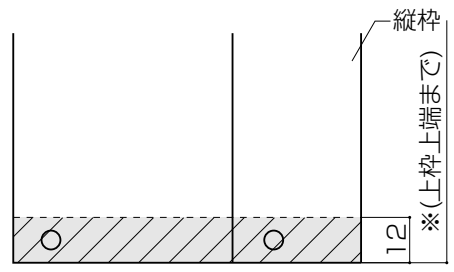
【薄下枠を使用する場合】

※縦枠下部(A部)は切断せずに使用してください。
●下図のように各部材を組合わせ、同梱のねじで固定します。



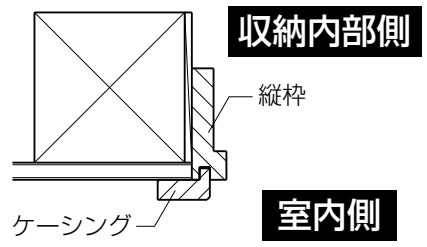
■A部詳細図

※この寸法は床上面(F.L.)から上枠上端までの寸法を、
H23=2306
H20=2023
にする時の寸法値です。現場の納まりにより変更してください。



2 枠の取付け

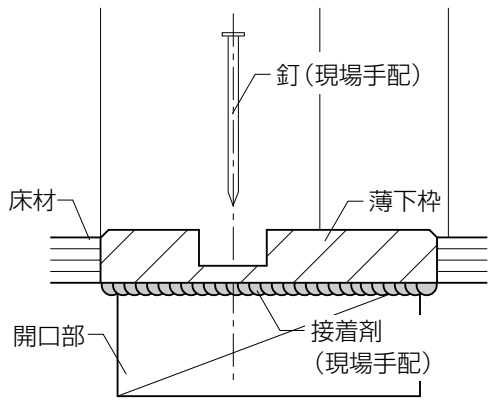
●組み立てた枠を開口部に入れます。ここでケーシングタイプの場合は、縦枠にケーシングを差込みます。
枠の固定位置を確認します。
※ケーシングの足は設定が限られており、後で調整することができません。このため、位置出しは確実に行ってください。
※ケーシングは、位置出しのためですから、固定はしないでください。



●上枠・下枠・縦枠を躯体開口部に固定します。その際、長レールも合わせて固定します。

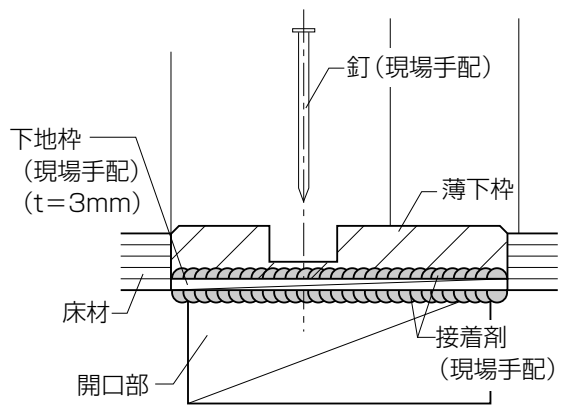
●床材厚さ12mm

※必ず薄下枠に接着剤（現場手配）を付け、躯体に固定してください。

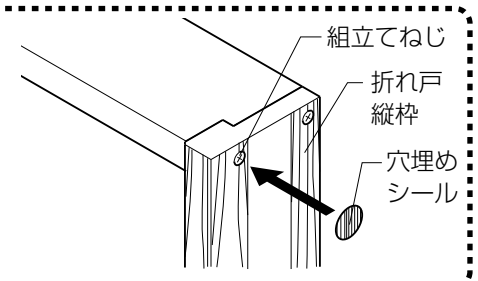


●床材厚さ15mm

※必ず薄下枠と下地材に接着剤（現場手配）を付け、躯体に固定してください。



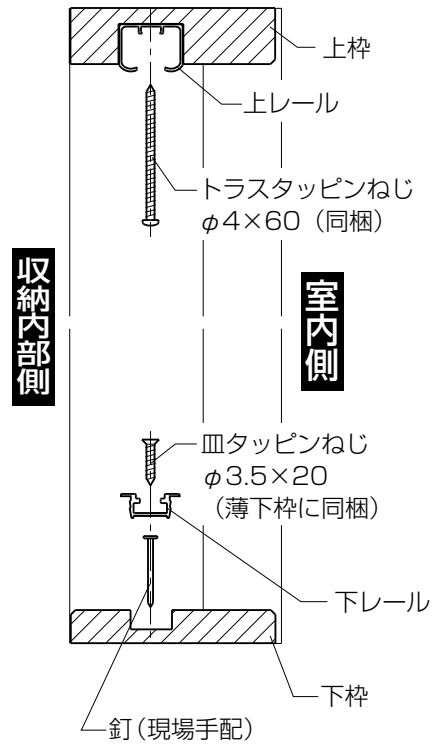
【穴埋めシールの使用方法】
ノンケーシング枠において、折れ戸縦枠が、仕上げボード面よりも12mm以上出る場合に使用してください。右図のように、穴埋めシールの木目方向を合わせて、組立てねじ頭部に張ってください。



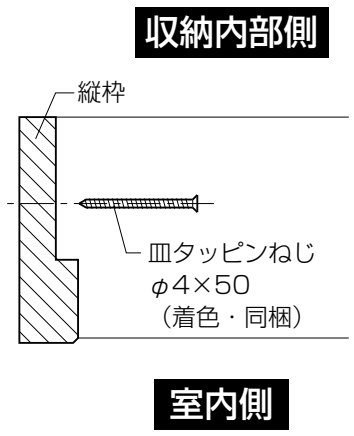
⚠ 注　意

●上レールは仮固定されていますが、必ず指定のねじで躯体へ固定してください。

■薄下枠を使用する場合



※皿タッピンねじの頭と縦枠が面一になるまでねじを回してください。

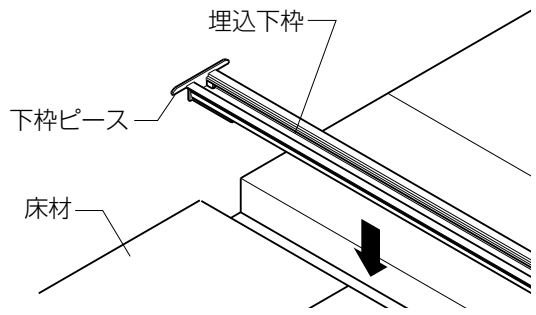


お願い
※枠の建付けはゆがみがないことを確認してください。ピボットタイプへ変更した時、本体の開閉操作が重くなることがあります。

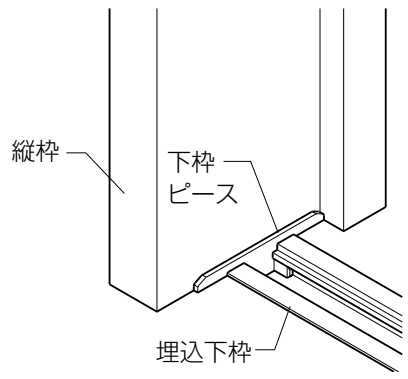
■埋込下枠の取付け

①下枠ピースを取付けた状態で床に埋込みます。（図-1）
②（図-2）のように縦枠段差部をピースにあて位置決めをし、上枠・縦枠を開口部に固定します。（図-3）
③埋込下枠をねじ（皿タッピンねじφ3.5×20）で固定します。（図-4）

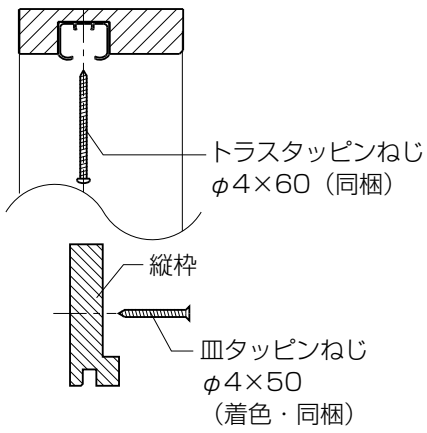
（図-1）



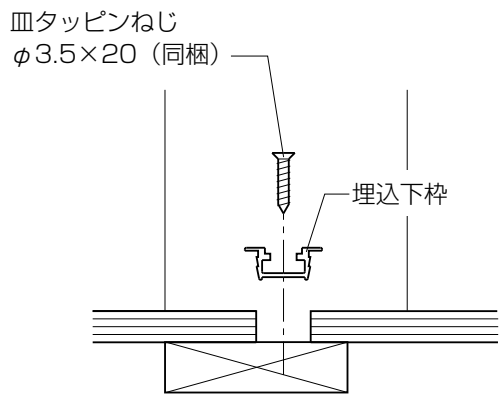
（図-2）



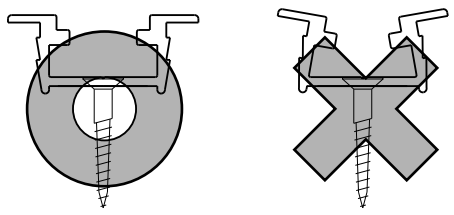
（図-3）



（図-4）

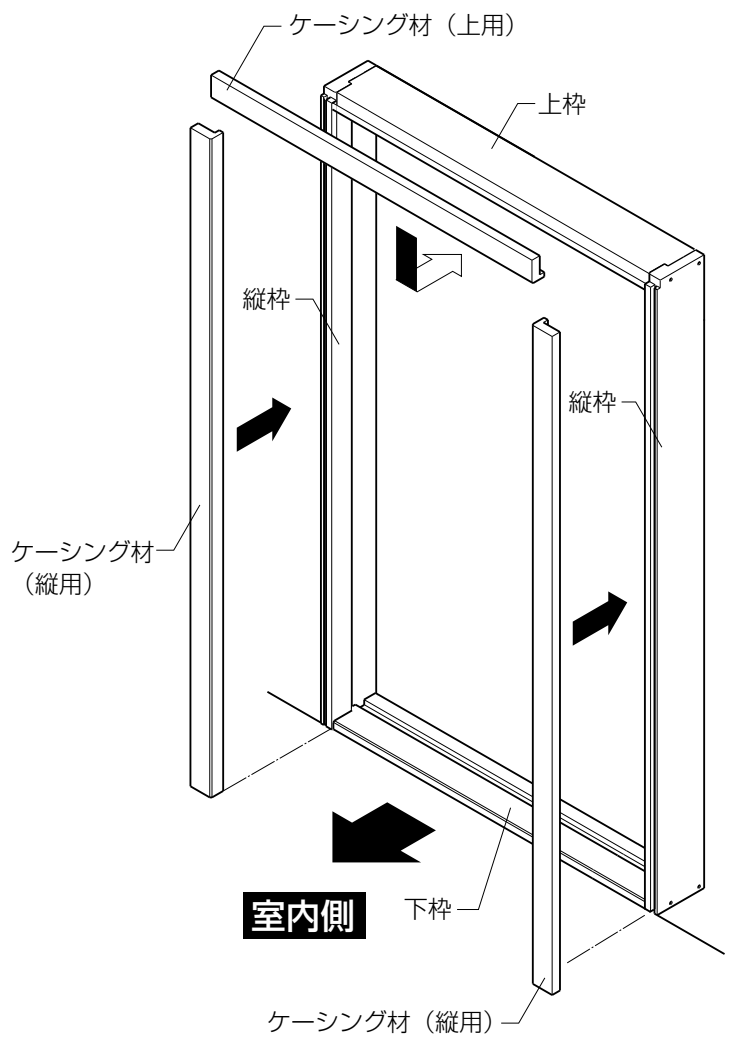


お願い
※埋込下枠を取付けるねじは、締めすぎないようにしてください。下枠が変形し、本体開閉不具合の原因となります。



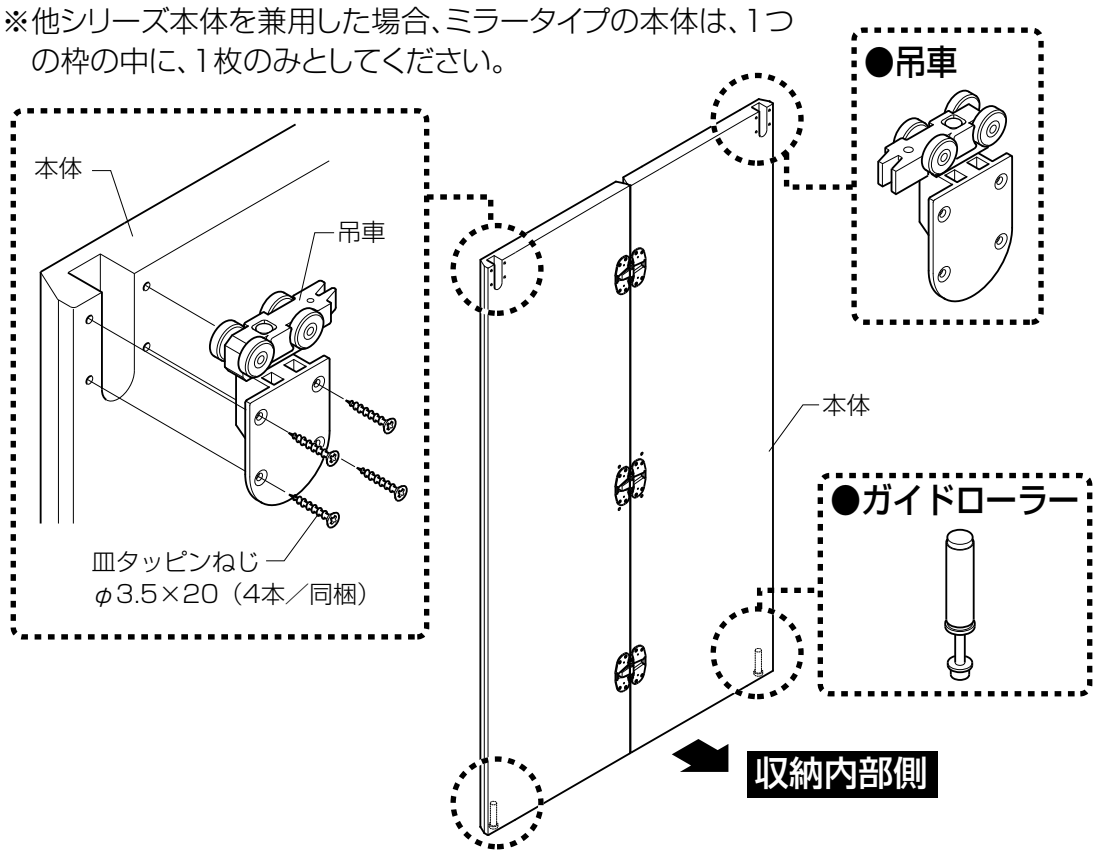
■ケーシング材の取付け
【ケーシングタイプのみ】

※壁材・床材を仕上げてからケーシング材を取付けてください。
①別梱のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。（上用ケーシングは枠に合わせてあらかじめカットしてあります。）
②枠のケーシング溝へケーシング材を差込みます。
③ケーシング溝とケーシング材裏面に接着剤（現場手配）を塗布し、ケーシング材を固定します。
※仮止めする場合は、専用かくし釘をご使用ください。

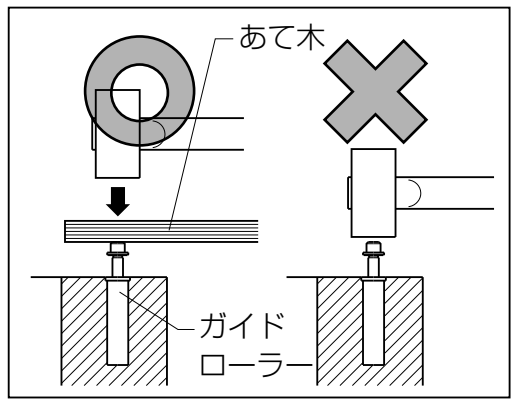


■本体の吊込み

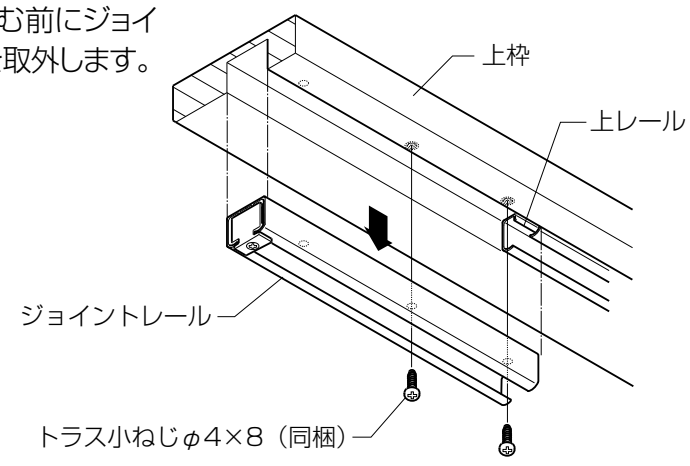
①本体上部の切欠き部に吊車を差し込み、皿タッピンねじで固定します。ガイドローラーを本体の加工穴に圧入します。
※他シリーズ本体を兼用した場合、ミラータイプの本体は、1つの枠の中に、1枚のみとしてください。



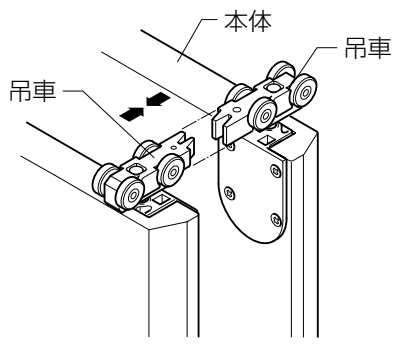
※ガイドローラーを圧入する際、樹脂部にあて木を使用してください。

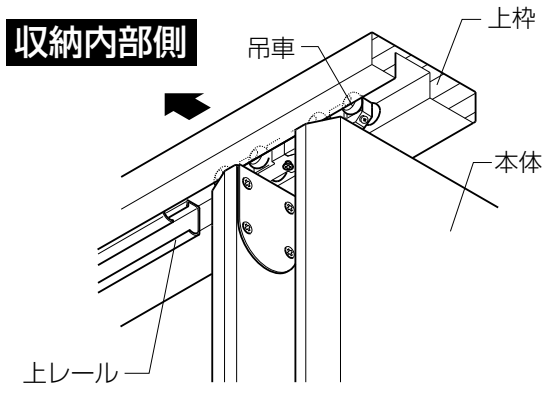


②本体を吊込む前にジョイントレールを取外します。

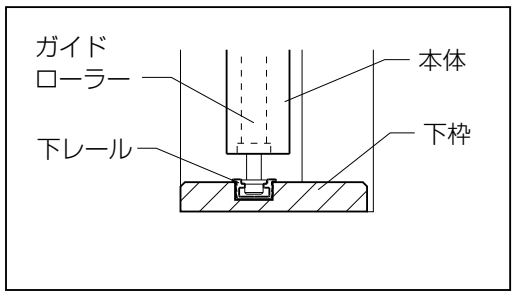


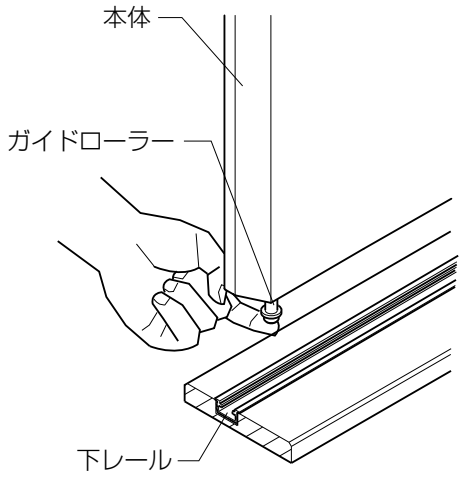
③本体を折りたたんで本体上部の左右の吊車をかみ合わせます。次に上枠のレール端から、吊車を差込みます。





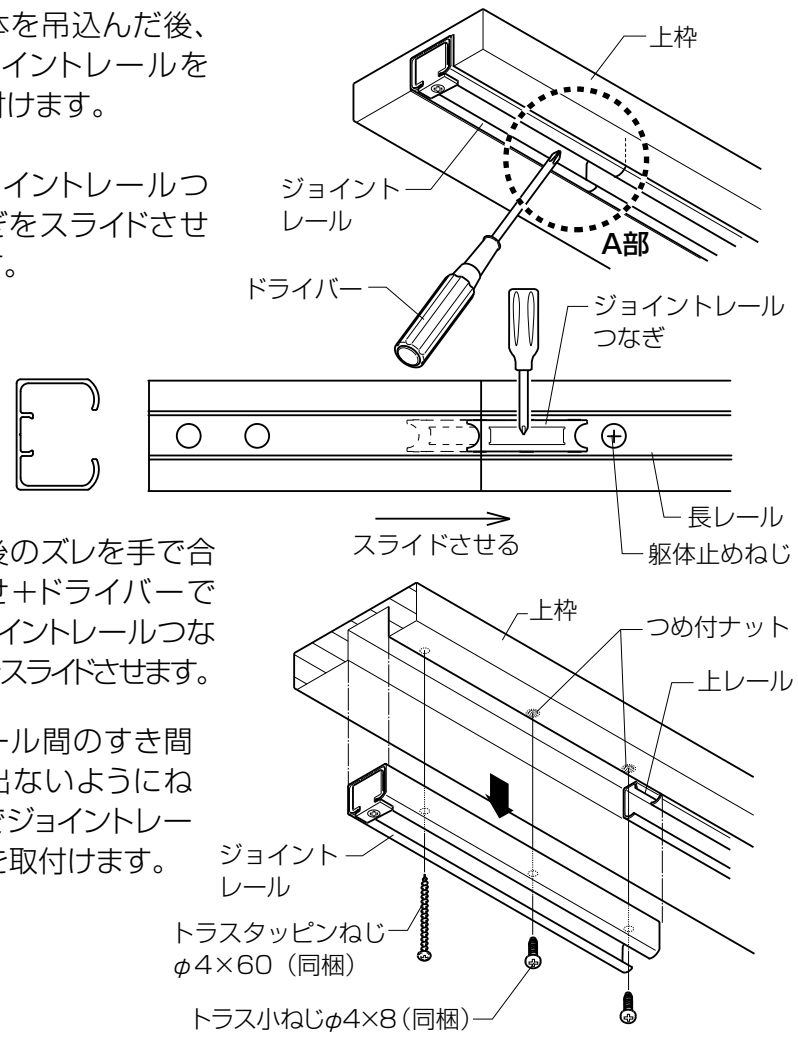
④ガイドローラー先端を指で押さえ、下部レールへ差込みます。





⑤本体を吊込んだ後、ジョイントレールを取付けます。

・ジョイントレールつなぎをスライドさせます。

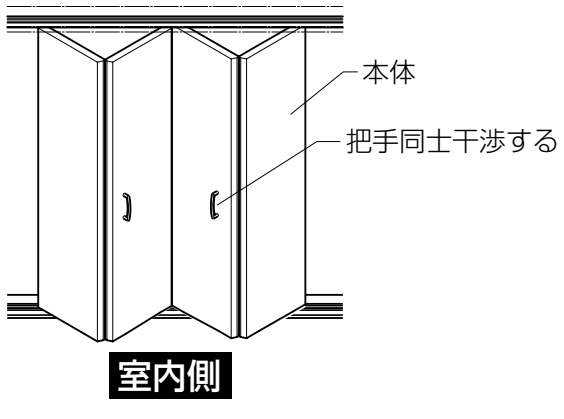


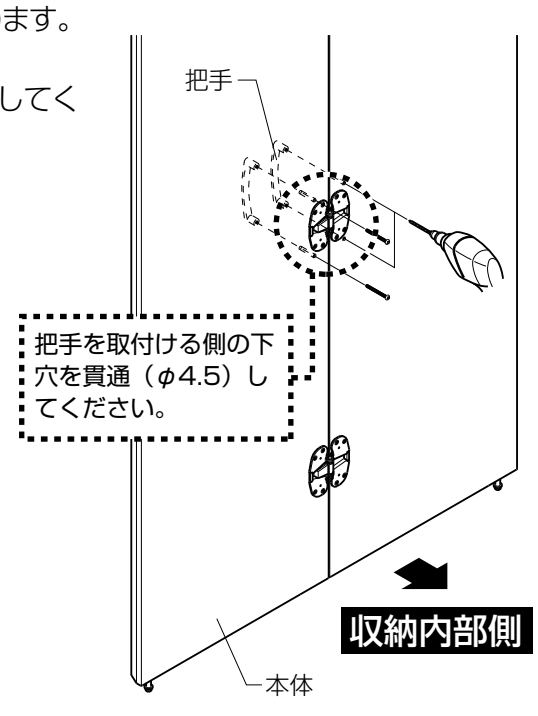
※前後のズレを手で合わせ＋ドライバーでジョイントレールつなぎをスライドさせます。

・レール間のすき間が出ないようにねじでジョイントレールを取付けます。

⑥把手を取り付けます。
2枚の本体の裏面に把手取付け用の下穴が中間位置まであけてあります。
把手を取付ける側の本体の下穴を貫通（φ4.5）してください。
下穴をあける際には、本体表側にあて木をし、バリが出ないようにしてください。

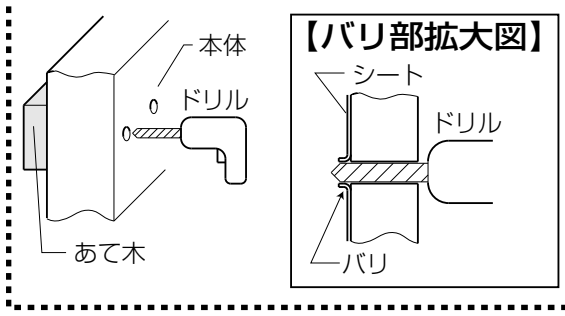
把手取付け時のお願い
※フリータイプの時に、本体を折った状態で向かい合わせになる本体それぞれに把手を取付けると、把手同士が干渉してキズが付くおそれがあります。





把手取付け時のお願い

●把手穴を貫通する際は、バリ発生防止のため本体表側に必ずあて木をしてください。それでもバリが出た場合は、無理にはがさず、そのまま把手を取付けてください。（多少のバリは把手の下に隠れます。）

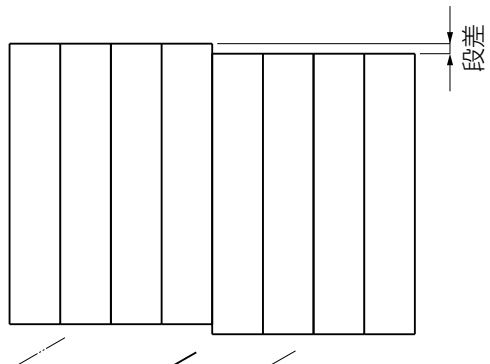


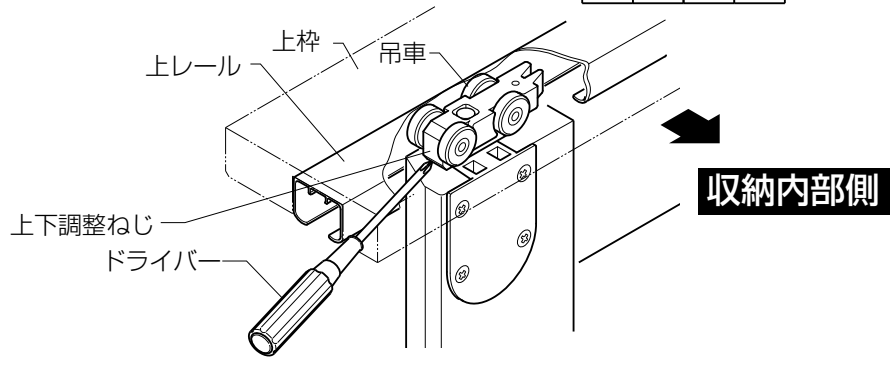
■調　整

※本体の段違い(上・下)を調整します。

【段違い(上・下)の調整】

●本体の取付け後、上下の目地が合っていない場合、左右の吊車の上下調整ねじをドライバーで回し調整してください。
(上下調整量±3mm)

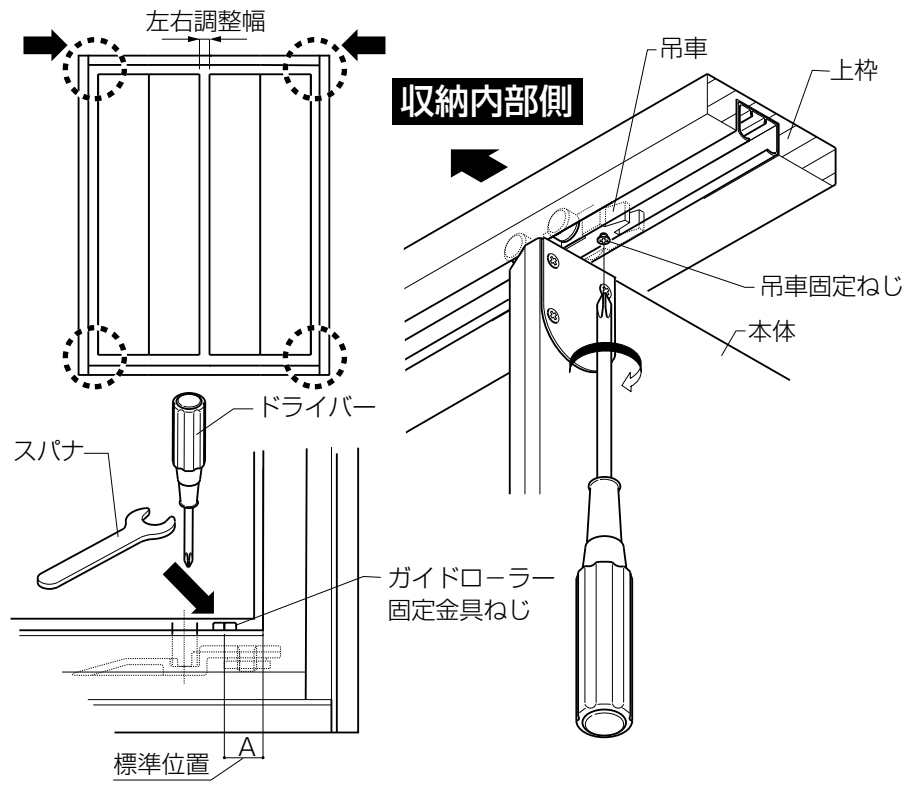




【チリ(左・右)の調整】(ピボットタイプの場合)

●ガイドローラー固定金具の取付け方法は**【フリー→ピボットの変更】**を参照してください

●本体間のチリが大きい場合、吊車及びガイドローラー固定金具で左右調整をおこないます。

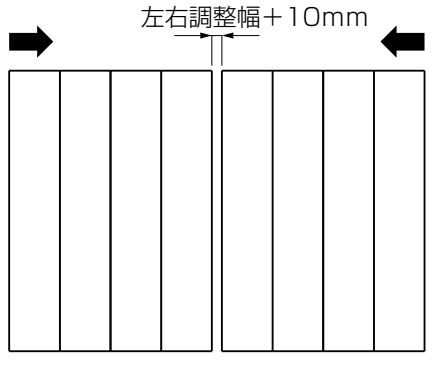


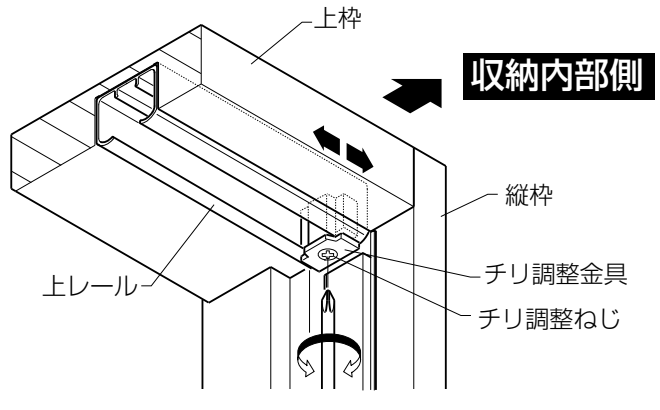
※ガイドローラー固定金具のねじをドライバー又はスパナでゆるめて移動させます。

※吊車固定ねじをドライバーでゆるめて移動させます。

【チリ(左・右)の調整】(フリータイプの場合)

●本体間のチリが大きい場合、上レールの端部(左右)に付いているチリ調整金具で調整できます。
チリ調整ねじをドライバーで回し、調整してください。チリ調整ねじを右に回すと、チリが小さくなります。
注)チリ調整金具は、上レールの左右に付いています(W07･08は、片側のみ)ので、左右均等に調整してください。

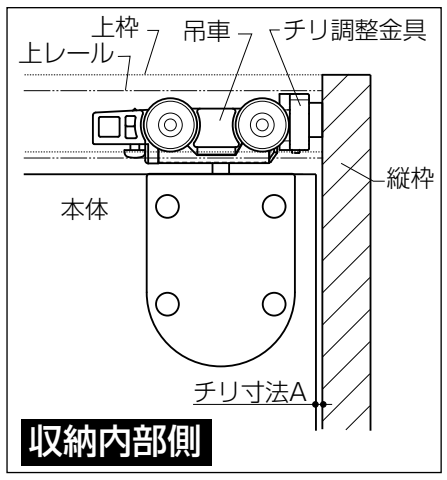




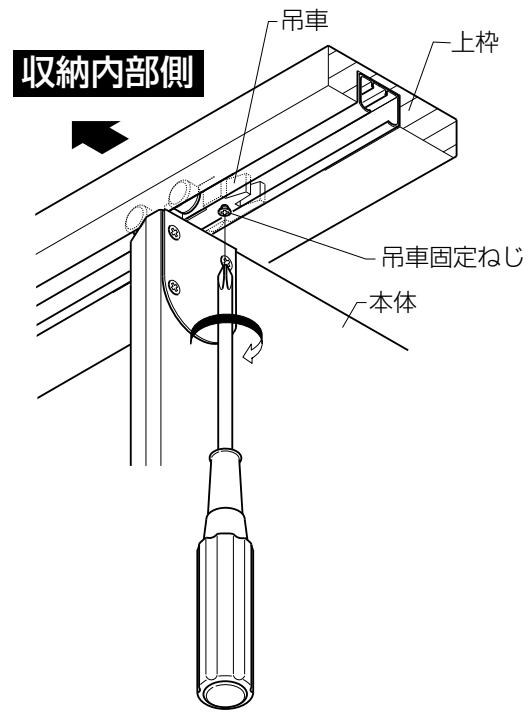
【フリー→ピボットの変更】

●本体上部の固定

①本体をピボットにしたい位置まで移動させます。
②固定したい本体側の上部吊車に付いている"吊車固定ねじ"を回し、吊車が固定されるまでねじを回します。
③本体を左右にゆすって本体が固定されたかどうかを確認します。



	チリ寸法A(mm)
本体1Pの時（W07,08）	3.5
本体2Pの時（W12,13,16,18）	4
本体3Pの時（W24,26,27）	3.5
本体4Pの時（W33,34,36）	3.5



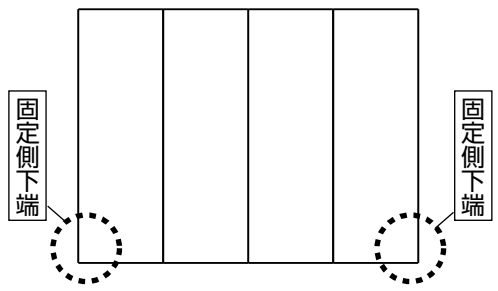
【ピボット→フリーの変更】

①吊車の吊車固定ねじを、ねじの回転が重くなるまで緩めてください。緩める量が少ないと吊車の動きが悪くなり、開閉不具合の原因となります
②ガイドローラーをガイドローラー固定金具から外し、ガイドローラー固定金具の固定ボルトを緩めてレールから外してください。この時、ガイドローラーは必ずレールにはめ込んでください。

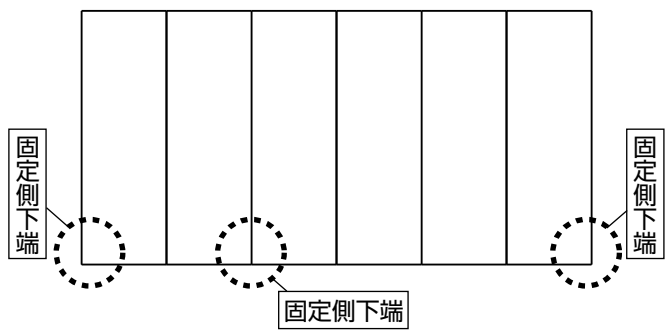
●本体下部の固定

※ピボットタイプとして本体を使用する場合は、本体用部品セットに同梱のガイドローラー固定金具を用いて本体固定側の下端を固定してください。

●本体2体固定の場合

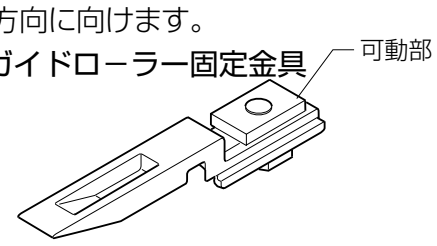


●本体3体固定の場合



①本体を正しい位置に移動させて、本体垂直がでているか確認します。
②ガイドローラー固定金具可動部を下図のよう長手方向に向けます。

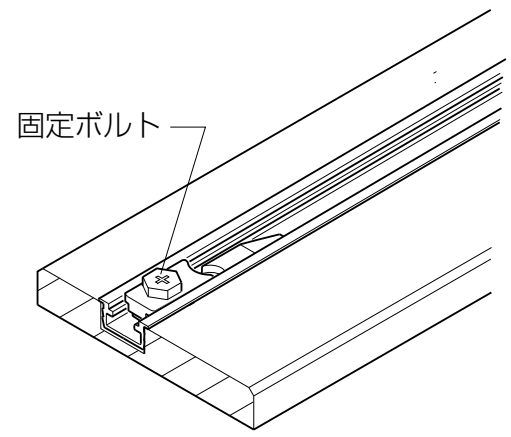
●ガイドローラー固定金具



●ガイドローラー固定金具使用数量

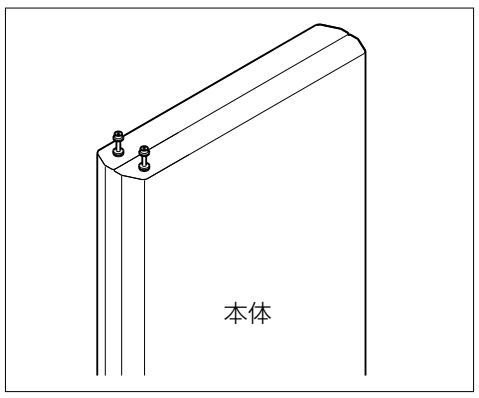
	数　量
本体1体固定の場合	1個
本体2体固定の場合	2個
本体3体固定の場合	3個
本体4体固定の場合	4個

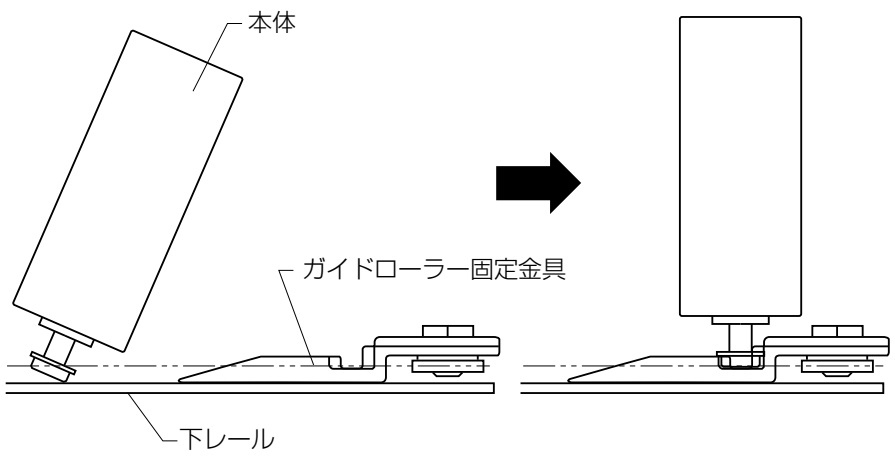
③ガイドローラー固定金具可動部を、長手方向に保ったまま下レールに取付けます。



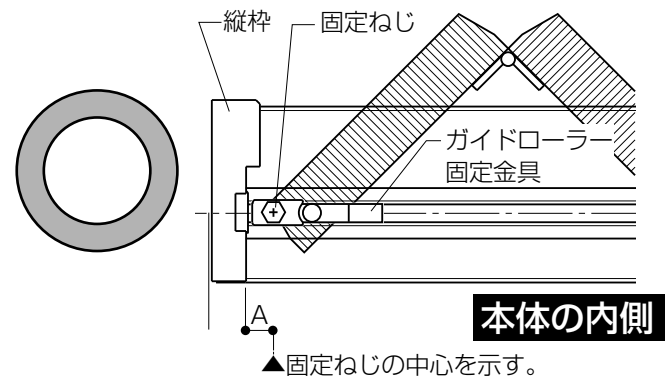
固定ボルトを、ドライバー又はスパナにて締付けてください。

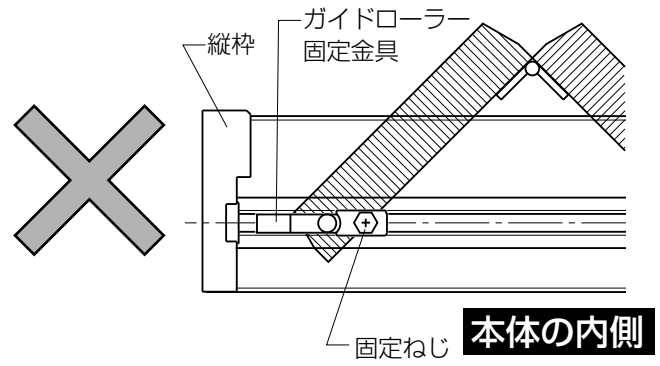
④本体のガイドローラーをガイドローラー固定金具に取付けます。
1.下図のように本体をたたみます。
2.ガイドローラーがガイドローラー固定金具にはまる(「カチッ」と音がする)まで本体を立てます。
3.別の本体も同じ手順で吊込んでください。





⑤ガイドローラー固定金具の取付け向きは、下図のように固定ねじが本体の外側になるよう、取付けてください。
ガイドローラー固定金具の固定位置は、右図を参照してください。
⑥固定ねじをプラスドライバー又はスパナで右に回します。ガイドローラー固定金具が動かないよう固定されたかどうか、確認してください。
※尚、再びピボットからフリーにするときは、吊車の固定ねじをゆるめたあとガイドローラーをガイドローラー固定金具から外し、ガイドローラー固定金具の固定ねじをドライバー又はスパナで緩めてレールから外してください。
この時、ガイドローラーは必ずレールにはめこんでください。



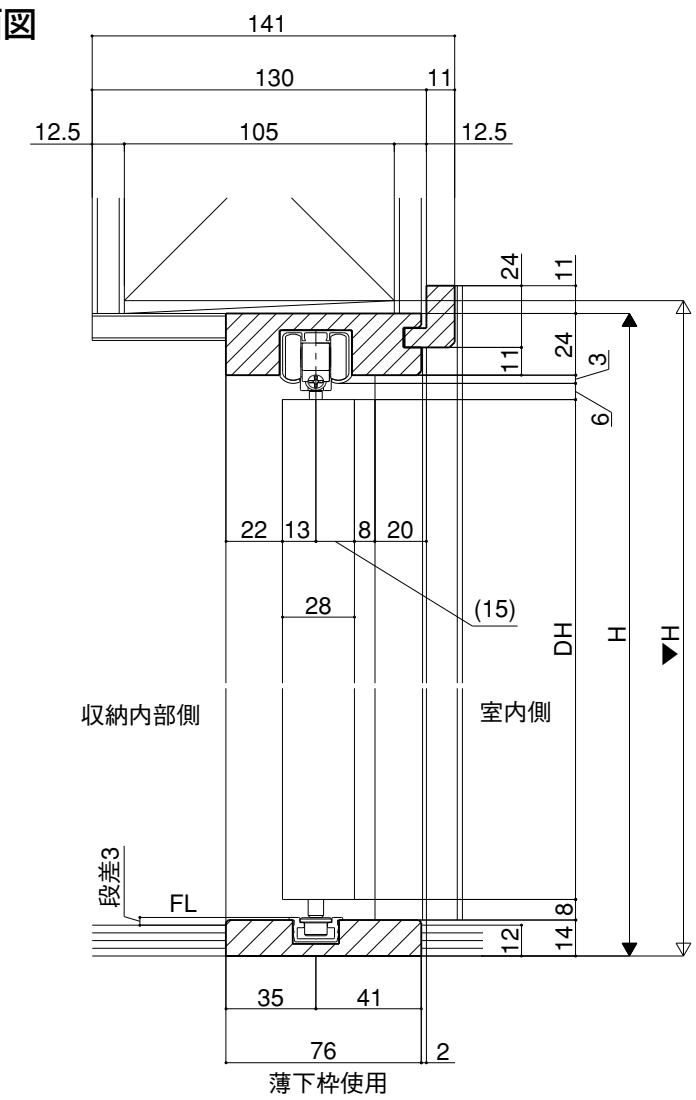


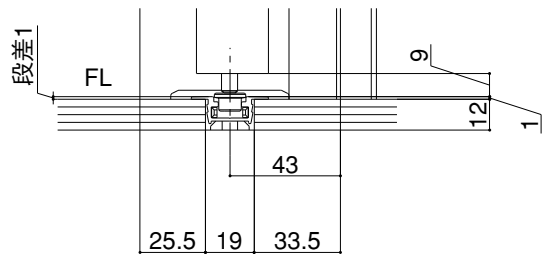
固定ねじの中心までの寸法	A
W12,13,16,18の場合	13
上記以外の場合	12.5

■納まり図

●折れ戸ユニット　フリータイプ　ケーシング付

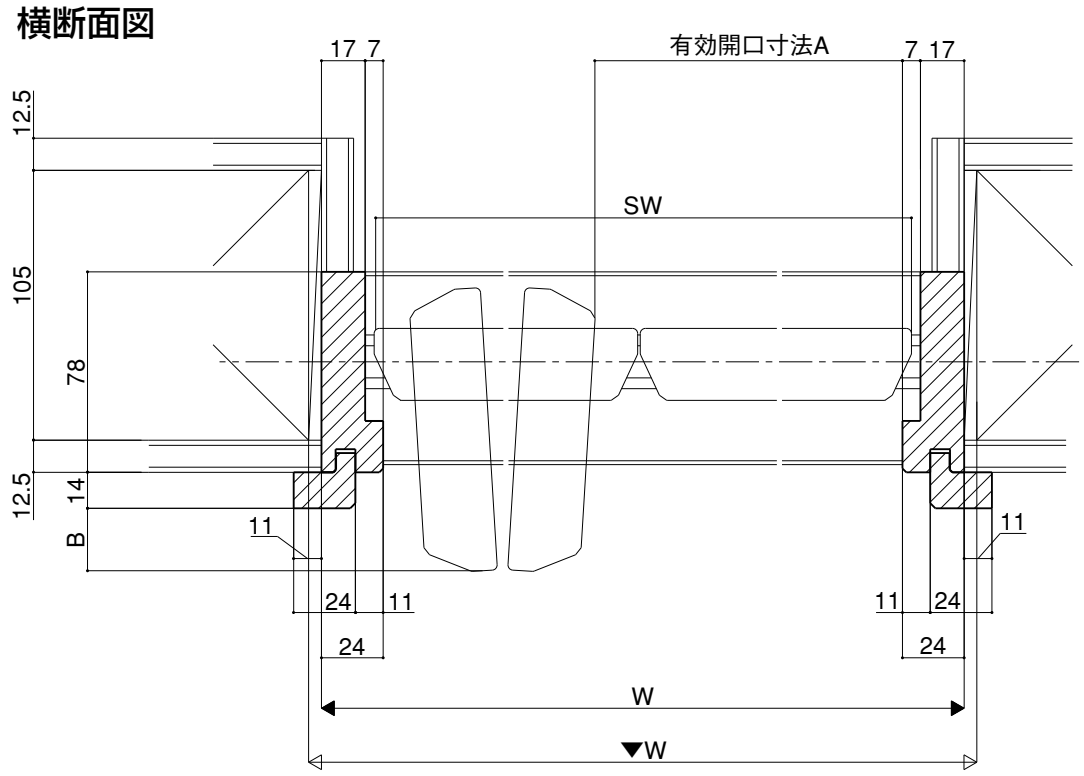
縦断面図





基本寸法(㎜)	W呼称	07	08M	12	13M	16	18M
	W	734	824	1183	1323	1643	1823
	W呼称	24	26	27M	33	34	36M
	W	2443	2581	2713	3244	3428	3604
	H呼称	20	23				
	H	2035	2318				

横断面図



W呼称（枠外寸法）	A寸法	B寸法
W07(734)	566	265
W08M(824)	657	310
W12(1183)	894	204
W13M(1323)	1034	239
W16(1643)	1355	319
W18M(1823)	1534	364
W24(2443)	2033	319
W26(2581)	2171	342
W27M(2713)	2303	364
W33(3244)	2712	319
W34(3428)	2896	342
W36M(3604)	3072	364